《第３回 ICD特別賞受賞者》

ICD Award 特別賞に対する回顧録

ICDフェロー
須賀歯科医院

須　賀　康　夫

●抄　録●

ICD日本部会の年末集会が2023年12月16日帝国ホテル「光の間」で開催されましたが、その席で私が今年度のICD特別賞、モリタ賞受賞の栄誉に浴することができ大変幸せに思います。

この特別賞をいただくことができたのは縁あって凡そ45年前より韓国の歯科界に微力ながら関わってきたことが認められたのではないかと思っています。

そこで過去を思い出しながら韓国の歯科と私がどのように関わってきたかについて振り返ってみることにします。

キーワード：米国歯内療法学会、慶熙大学歯学部、大韓歯科医師会誌初のカラー刷り

私が韓国へ行くきっかけとなったのは当時（1970年代後半）韓国から日本へ大勢の留学生が来ていましたが、慶熙大学歯学部からも２人の留学生が来ており、そのうちの１人崔富昺副教授は大阪歯科大学の三谷教授の補綴科へ、他の１人、金一奉副教授は日本大学歯学部の有田教授の矯正科に留学生として来日しました（図１～３）。

（帰国後、崔富昺副教授は慶熙大学歯学部長・ICD韓国部会フェロー・PFA韓国会会長に、そして金一奉副教授は慶熙大学歯学部教授・ICD韓国部会会長をそれぞれ歴任されています。）

私はその留学中の２人と偶然友達になることができ、時々両国の歯科事情について語り合っていました。ある時私がアメリカ歯内療法学会正会員であるこ

図１　留学直後の金一奉副教授（中央）と崔富昺副教授（右）（1977年頃）

図２　慶熙学園キャンパス（総面積100万平方メートル）（1978年頃）

図３　慶熙大学には３つの医療系の学部がある（医学部・歯学部・漢方学部）（1978年頃）

図４　Warren T.WAKAIを囲んで（右から、慶熙大学歯学部長 崔富昺、Warren T.WAKAI、大韓歯科医師会長 池憲澤）（1978.3）

とや、ホノルル在住のWarren T.WAKAI（アメリカ歯内療法学会副会長・米国ICDフェロー）が主宰する歯内療法研究所のインストラクターを勤めていることを知ると是非韓国の慶熙大学にも来るように依頼されました。

最初は断り続けていましたが、あまりの熱心さに結局引き受けることにしました。

それ以来慶熙大学歯学部へは年３回ずつ定期的に訪れており、これまでの40数年間に100回を越える回数となっています。

私の韓国での仕事といえば主に大学での学生・大学院生および職員に対し歯内療法や高周波電気メス・歯根膜腔隙麻酔法等の指導が主な仕事でしたが、時には学外での仕事もありました。

最初の学外での仕事は約46年前、当時アメリカ歯内療法学会副会長であったWarren T.WAKAI（ICD米国部会）を私のアレンジで韓国に招聘して慶熙大学歯学部と、そして大韓歯科医師会（池憲澤会長・ICD韓国部会会長）の２箇所で「最新の歯内療法」というテーマで講演会を開催しましたが、韓国初の大きな講演会ということもあり両会場とも超満員になり、講演は勿論のこと質疑応答もすべて英語で活発に行われ大盛況でした（図４）。

大韓歯科医師会誌初のカラーグラビアを発刊しました。

日本歯科評論1974年７月号でカラーグラフ「高周波電気メスの実際」９頁～26頁 筆者須賀康夫の臨床論文が掲載されましたが、これを見た大韓歯科医師会誌の関係者から韓国でもこれを掲載したいという要望があり、そのことを日本歯科評論社にお願いしたところ快諾を得たので、その臨床論文から日本語を削除したもの4000部を韓国へ送り、慶熙大学歯学部副教授らがその空白部分に韓国語を入れて４年後の1978年９月号でElectrosurgery臨床の応用（Ⅰ）、翌月の10月号で応用（Ⅱ）、として大韓歯科医師会誌初のカラーグラビアが発行されました。当時韓国の歯科医師らの間でこのカラーグラビアは大きな話題となりました（図５）。

その他、高周波電気メスを加圧根管充填に使用する方法、回転式磁石を組み込んだ歯根挺出装置などについての臨床論文を掲載したこともあります。

ソウル大学歯学部のMin教授の依頼で、教員や大学

図５　大韓歯科医師会誌初のカラーグラビア誌（1978.9）

図６　慶熙大学本部前にて（1980.9）

図７　歯学部附属病院内にて一般開業医を対象に歯内療法のデモ（1980.3）

図８　1985年３月慶熙大学より外来教授の委嘱状が授与された（それまでの数年間は副教授の資格）（1985.3）

図９　PFA韓国会から「歯内療法」と「高周波電気メス」についての講演依頼

院生を対象に「高周波電気メスの基本知識と臨床への応用」について講演をしました。

韓国第二の都市、釜山市内の臨床医を対象に２日間の歯内療法実習コースを実施しましたが、応募者が大勢で断るのに困ったこともありました（図６～８）。

Pier Fauchard Academy韓国会（会長 金鴻基）で、「高周波電気メスの臨床への応用」と「歯内療法の基礎」について講演をしました。このような講演会は当時としてはまだ珍しく、当日は韓国各地から泊りがけで参加されていました（図９）。

日本から韓国へ、また韓国から日本へ、歯科関係の視察に訪れる人たちの相談や案内等もこれまで数多く行ってきましたが、両国とも一般の臨床医が最も多く、次いで大学教授、病院長、衛生士学校関係の方々が多かったことを記憶しています（図10～12）。

慶熙大学の教授らと日本やアメリカで開催される学会をはじめ歯科大学、有名臨床家のオフィスなどへは何度となく訪問しました。

こうしたことから一冊のパスポートでは頁が足りずやむを得ずパスポートを２冊まとめた所謂「合本パスポート」を使用した時期もありました。

日本の歯科衛生士専門学校から韓国ソウルでの卒業研修先の依頼があり、これまでに延世大学歯科病院やソウル市内の先進的な歯科病院やクリニック等、学生の研修先をプランニングしたりしたこともあります。

1980年代の初めの頃から2010年頃までに歯界展望をはじめ各種の歯科専門雑誌社より「韓国の歯科事情」について記事の依頼が度々あり、これらの依頼に応えるためにずいぶん勉強させてもらいました。

その他、ICD韓国部会フェロー李正柘（延世大学歯

図10　両国の大学関係者が診療所の視察を希望することが多くあった（中央は愛知学院大学歯学部長長谷川二郎教授）

学部長）が在籍している国際ロータリー第3650地区ソウル―普信閣ロータリークラブと、私が在籍する国際ロータリー第2760地区名古屋―名東ロータリークラブの姉妹クラブ締結にも協力しました。

あれから26年経過した現在、これまで約20回ほど交互に訪問して、充実した国際交流が継続されています。

文章を終えるにあたりこれまで私が感じてきた韓国について一言を述べさせていただきます。

私が初めて韓国を訪れたのは今から40数年前（1970年代後半）でした。その頃の韓国といえばまだ南北戦争の影響が色濃く残っており、国全体が発展途上国そのものでしたが、その後韓国国民のあのバイタリティと語学力が功を奏し、近年韓国国内のあらゆる産業の発展ぶりには目覚ましいものがあります。その「源」となっているのは世界的にも有名になった「漢（かん）江（こう）の奇跡」ではないでしょうか。

ご多分に漏れず歯科領域でも例外ではなく、そのレベルは現在世界のトップレベルと云われるまでに発展しています。最近では日本人歯科医師が韓国へ勉強に出掛ける人達もあり私が韓国を最初訪れた約半世紀前とは比較にならないほどの発展ぶりです。

最後になりましたが、この度ICD Award特別賞受賞に対し、ICD日本部会会長の鏡宣昭フェローをはじめ、この特別賞の推薦者である中部支部長の鈴村佳弘フェロー、そして日本部会フェローの皆様方に対し感謝申し上げます。

図11　慶熙大学歯学部を視察する名古屋デンタルスタディークラブ（NDSC）の一行（中央の白服は崔富昺学長。右から３人目が私）（2009.7）

（日本歯科評論 NOV. 2009 NO.805 Vol.69(11)より）

図12　慶熙大学歯学部附属病院内の一部（2009.7）

Commentaries on the ICD Special Award

Suga Dental Clinic

Yasuo SUGA, D.D.S., F.I.C.D.

The year-end meeting of the ICD Japan Section was held on December 16, 2023, at the Hikari Room, Imperial Hotel. I was honored to receive this year's ICD Special Award and Morita Award at the meeting.

I believe that this Special Award is a recognition of my involvement in the Korean dental community, albeit in a very small way, for about the past 45 years.

I would like to take this opportunity to look back at how I have been involved in the Korean dental community over the past years.

Key words：American Association of Endodontists, Kyung Hee University School of Dentistry, First Color Printing of the Journal of the Korean Dental Association